

令和7年度 文化教育常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 木山耕治 (副委員長) 金子 遥 (委員) 山口順平 (委員) 吉川ひかり (委員) 山崎広子
(委員) 長谷川由美

2 観察日時

令和7年10月22日 (水) 午後1時00分から午後2時30分

3 観察先

大阪府堺市

4 観察事項

(1) 教育支援教室について

5 観察概要

		(担当:吉川 ひかり)
観察先選定理由		<p>堺市では、教育委員会が教育支援教室を運営しており、学校以外の居場所として、子どもたちが活動を通して社会的自立や学校復帰を目指せるよう支援している。また、市ホームページ等では、市内のフリースクール情報や相談窓口などを積極的に公開しており、不登校支援施策に取り組んでいる。</p> <p>本市においても不登校児童・生徒への支援や学校以外の居場所づくりの充実が課題となっていることから、堺市の教育支援教室についての取組を学び、今後の政策検討に資するため観察先として選定した。</p>
内容		<p>(1)教育支援教室について</p> <p>教育委員会が運営する不登校の児童・生徒の学校外の4つの居場所として、ソフィア、スプリングポート、ユアイルーム、ソフィア 梅教室が行政区に区切った形で存在している。入室は学校を通じて手続きを行い、通室後は学習や課外活動等、学校と連携して社会的自立や学校復帰への支援を行う。令和7年度の予算は66,587千円となっている。</p> <p>指導主事が1名と会計年度任用職員を配置して指導体制をとっている。不登校の児童・生徒は令和5年度は2,151人で令和元年の977人の約2倍以上になり、小学生の増加の幅が大きい。また、教育支援教室への登録者数も増加している。4年生以上が対象で、教育支援教室に通う生徒は不登校児童・生徒の10パーセント程度である。毎日通う児童・生徒はおらず、週数回通室するケースが多い。学校復帰率は75%で高い数値となっている。</p> <p>体験学習では、農家の野菜の収穫体験、プラネタリウム見学などがある。</p>

	<p>学習は基本的には自分自身で行い、支援は基本1対1で行っている。他者とコミュニケーションをとすることが苦手な児童・生徒も多くいるため、子どもたちの自主性を引き出すことを意識している。学校との連携としては、双方（学校と教育支援教室）の行事予定の情報共有や、教育支援教室での参観等も行っている。学校から届けられたテストを教育支援教室で同じ時間に受検したりするなど、学校との連携が途切れないことが必要と考えている。</p> <p>令和5年度から堺市不登校支援ネットワーク連絡協議会を立ち上げ、教育委員会、校長、フリースクール、民間施設で情報交換を行っているが、情報が少ない等の声が保護者からあがっており、情報提供及び情報発信の在り方が課題と捉えている。</p>
考 察	<p>堺市の優れていると感じた点は、不登校の支援については、基本的に学校を中心に行うとしながらも、不登校支援に関する情報を市ホームページで市民にしっかりと周知している点である。</p> <p>相談窓口や、フリースクール、ネットワークや保護者同士がつながる場なども公表されており、子育てからの孤独感を防ぐような仕組みづくりが構築されていると感じた。また、フリースクール一覧表も令和6年に作成し、広報紙で情報を求め、イベント情報も積極的に掲載している。各フリースクールもつながりをつくる機会が大事と捉え、子ども家庭センターとも連携したことであったが、子どもの保障についての視点を大きく捉え、一つ一つ積み重ね、市民に向けてオープンにしている様子から行政の努力を感じられた。</p> <p>人員配置については教職員のOBなどが在籍していることであるが、通常級においても教員不足が生じており、教育支援教室の人材確保は常に課題であると伺った。教員不足や人材確保については全国的においても喫緊の課題であることから、本市においても人材確保策についても考えていかなければいけないと感じた。</p> <p>学校へ行きづらいと感じている児童・生徒が、毎日ではなくても週に何度か通室し、先生や友達と過ごすこの教育支援教室は、子どもたちが主体的に学べる多様な学びの実現に向けての大きな一歩だと感じた。学校に行かないと学べないという考え方は時代遅れであり、不登校児童・生徒が増加傾向である中で、多種多様な居場所や過ごし方を提供することは本市においても継続して検討していくかなければいけない課題だと感じた。</p>

堺市HP・不登校支援に関する情報 (学校外の居場所・保護者の会・相談窓口など)

不登校のこどもたちへの支援については学校が中心となって様々な取組を行っていますが、このほか、堺市ホームページでは、不登校のこどもたちが過ごす学校外のさまざまな居場所、保護者同士がつながる場、相談窓口、イベントなどの不登校支援に関する情報を提供しています。



堺市HP「不登校支援に関する情報」はPCやスマートフォンからこちらの二次元コードを読み込んでご覧ください。

教育支援教室

区の居場所

区役所が運営する学校外の居場所です。
【堺市が運営】

こどもたちがさまざまな活動を通して主体的に社会的自立や学校復帰に向けよう支援している学校外の居場所で、市内4か所で開室しています。
【堺市が運営】

保護者同士がつながる場(保護者の会など)

不登校のこどもの保護者同士がつながり、悩みや思いを共有できる場の情報を提供しています。

堺市内のフリースクール等

各フリースクール等で特色ある運営をしています。詳細は、各施設に直接お問い合わせください。
【民間運営の施設】

※堺市内のすべてのフリースクール等を網羅しているものではありません。また、各施設の活動内容等を堺市が保証するものではありません。

相談窓口

不登校に関する相談窓口を紹介します。

大阪府フリースクール等ネットワーク

不登校支援イベント情報

不登校支援に関するイベント情報を提供しています。

不登校のこどもや、その保護者を支援する府内のフリースクール運営団体等が加盟するネットワークです。
【市外のフリースクール等民間施設】